

(目的) 大学生の性役割意識を男女差を中心に把握することである。性役割意識の指標として、男女の役割関係のあり方に対する態度、性の二重基準の有無、男女交際における男性のリーダーシップへのこだわりなどを用いた。

(対象) 都内およびその近郊にある4年制の私立大学6校と国立大学4校で実施。調査時期は1990年1月。有効対象者数は735名。男子48%、女子52%。19歳から21歳までで76%を占める。文系88%、理系12%。出身地の所在地は、全国にわたって分布しているが、関東地域だけで66%になる。

(結果) 1) 男女の役割関係のあり方に対する態度では、男子の約半数は伝統型で革新型は18%にすぎないのに対し、女子は革新型が45%にものほり伝統型はわずか19%、という男女間のギャップが明らかになった。2) 性モラルの二重基準については、女子は二重基準なしが80%近くを占めているのに対し、男子は42%が伝統的な二重基準をもっている。3) 男女交際における男性のリーダーシップに対するこだわり得点は、女子の方が高い。女子の半数が高得点群にいたのに対し、男子は低得点群に4割と最も多くの者が集まっている。4) 女子の場合、男女の役割関係についての意識は、母親の職業歴と関連がある。革新型の割合は、母親が継続就業型で最も多く、伝統型は母親が専業主婦型で最も多い。男子ではそのような傾向は確認されなかった。また、学年が上がるにつれて、女子は性モラルの二重基準ありの割合が少なくなるが、男子はその逆で多くなり、伝統的な性モラルをもつようになることが確認された。